

株式会社モスフードサービス 様

## 国際財務報告基準 (IFRS) への対応を見据えて 会計業務の標準化や勘定科目の統一など、 ガバナンスの強化を実現する グループ共通会計システムを構築

「食を通じて人を幸せにすること」を企業目標とし、「おいしさ、安全、健康」を実現する様々なメニューを「真心と笑顔のサービス」とともに提供し、明日への活力再生の場を提供し続けているモスフードサービス様。将来のIFRS対応を見据えて、業務効率の改善とグループ全体でのガバナンス強化を実現するためにグループ共通会計システムを検討した結果、モスフードサービス様が求めるシステム像に合致したのが、「ProActive E<sup>2</sup>」でした。



### User's Profile



MOS BURGER.

株式会社モスフードサービス

設立:1972年7月

売上高:653億2,900万円(2014年3月期)

国内店舗数:1,408店舗(2015年2月末現在)

海外店舗数:326店舗(2015年2月末現在)

従業員数:1,250人(2014年3月現在)

事業内容:

フランチャイズチェーンによるハンバーガー専門店「モスバーガー」の全国展開、「マザーリーフ」などのその他飲食事業



経営サポート部  
経理グループリーダー  
丸尾 宗嗣 氏



経営サポート部  
情報システム  
グループリーダー  
藤井 応子 氏

### 導入の背景

将来のIFRS対応、グループ全体のガバナンス強化、業務効率の改善を実現するためにはシステムのリプレースが必要だった。

モスフードサービス様では、IFRS適用に向けた準備において、グループ会社の会計業務の把握を通じ、会計業務の標準化や勘定科目の統一など、ガバナンスの強化が必要であり、旧システムのままでは、対応が難しいと感じていた。将来適用予定のIFRSの対応をはじめ、旧会計システムにおける課題解決の実現に向けた新会計システムの検討を開始した。

### 課題

- 1 各業務システムがバラバラのためにデータ連携が無く、マスタの二重管理、データの整合性確認など、業務効率の向上を実現することが難しい
- 2 将来のIFRS適用やグループ全体のガバナンス強化を実現するため、会計業務の標準化や勘定科目の統一を行いたい
- 3 法改正への迅速な対応や、マスタデータメンテナンスなどのシステム運用負荷を軽減したい

### 選定のポイント

ニーズに合致した会計システムを選択するため、機能、サポート、プレゼン内容を全体的に評価。「ProActive E<sup>2</sup>」が最適と判断。

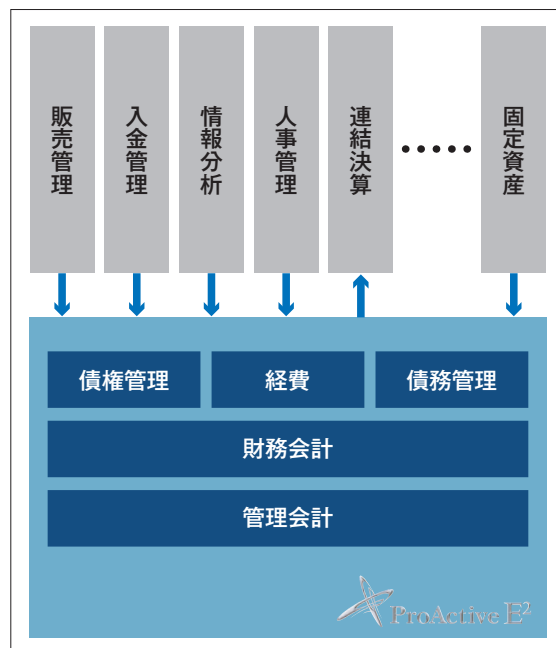
新システム選定の3つのポイント

- 求める業務要件に対する適合率の高さ、豊富な実績によるノウハウを活かしたサポート力の高さを評価したこと
- システムへの二重入力の排除など、旧システムの課題を解決できるシステムであること
- IFRSに対応した標準機能を活かした導入のため、今後の制度改正や機能強化などのバージョンアップにも容易に対応でき、環境変化に強いシステム基盤を構築できること

## 導入のプロセス

経理グループ、情報システムグループが連携して、スケジュール通りに導入を完了。

導入は、当初のスケジュール通りに進み、予定通りの本番稼働を迎えることができた。情報システムグループリーダーの藤井氏は、「システム利用部門である経理グループが、マスタ整備などの導入作業を主体的に実施し、導入ベンダーとのコミュニケーションも円滑であったことが大きかったと思います。」とプロジェクトの成功要因を語る。経理グループリーダーの丸尾氏は、「今回のシステム導入は、グループで勘定科目を統一することが大きな目的の1つでしたので、グループ会社ごとに担当者を決めて、責任を持って、主体的に取り組みました」と導入当時を振り返る。また藤井氏は、「今回の導入は新日鉄住金ソリューションズ(NSSOL)とSCSKに担当してもらいましたが、大まかな内容から、細部に至るまで、きめ細かくSCSKのコンサルタントが対応してくれ、NSSOLのプロジェクトマネージャのマネジメント力も高く、そして両社が密に連携してくれたので、安心して任せられました。このメンバーだったからこそ、成功したと思います。」と評価する。全てが有機的につながり、モスフードサービス様のシステムは、予定通り、本番稼働を迎えた。



### 導入成功のポイント

- ✓ 主に利用する経理部門が主体的に行動し、導入ベンダーとのコミュニケーションが円滑であったことが成功のポイント

## 導入後の評価

業務効率の向上、迅速な意思決定の支援に加え、「環境変化に強いシステム基盤」の構築を実現。

「今回の新システムは、ニーズに合った会計システムを選定できたため、業務をパッケージに合わせることを前提に考えました。パッケージの利用メリットを最大化するためのキーワードは、“Simple is Best”であると思うからです。結果として、機能強化やIFRS対応など、今後のバージョンアップに追従できる基盤が整いました。また、導入の大きな目的の1つである本社と個社の会計システムを共通化し、会計業務の標準化や勘定科目の統一を行うことができ、個別決算や連結決算における内部統制レベルの均一化を高い水準で実現できました。マスタデータの連携により二重入力なくなり、業務効率が向上し、非常に満足しています。」(丸尾氏)  
 「システムが変わると、使いにくいなどの声が出ることもありますが、『ProActive E2』の操作性の良さもあり、社員からの不満は出ませんでした。特に経費精算の画面などは、画面から入力をイメージできるため、旧システムと比較して操作しやすくなったことを実感しています。」(藤井氏)  
 丸尾氏は、「今後の要望として、当社要望と市場ニーズが合致した機能の強化が、バージョンアップで実現されていくことに期待しています。変化に強いシステムのメリットを最大限に享受していきたいです」と期待を膨らませる。また、藤井氏も「導入フェーズが終わり、保守フェーズが始まりました。導入時に非常にきめ細かなサポートをいただいておりますので、保守の担当者にも、変わらぬ手厚いサポートをお願いしたいと思います」と語るように、新たなグループ共通会計システム「ProActive E2」が担う役割は重要であり、モスフードサービス様の期待も高い。



### 導入効果のまとめ

- ✓ グループで統一して利用できるため、グループ企業における会計業務の標準化やガバナンスの強化を実現できた
- ✓ 標準機能を活かした導入のため、制度改正、機能強化などのバージョンアップにより、長く利用できるシステムが実現できた
- ✓ データ連携による二重入力の排除により業務効率が向上した

お問合せ先

**SCSK** SCSK株式会社

SCSK カスタマーセンター

0800-500-4000 (無料) 受付時間 / 月～金 9:00～  
(祝日、年末年始、当社指定日を除く)

●携帯電話でのお問い合わせTEL:03-6670-2990

ProActiveWebサイト: <http://proactive.jp/> E-mail : [proactive@ml.scsk.jp](mailto:proactive@ml.scsk.jp)